

○令和7年度 町長とパパ・ママ子育て座談会（霧多布会場）で出された意見

Q 参加者からの意見・提言	
A 浜中町からの回答・見解	
Q1	保育所について、昆布漁が出漁しない場合も丘での仕事があることから、出漁の有無に関わらず朝8時から受け入れてほしい。
A1	(町長) 出漁の有無で受入時間を制限するような仕切りはありませんので、丘仕事がある場合は、8時に送っていった構いません。
Q2	小児の予防接種について、種類も多く近隣の町まででも帰宅するまでに一日を要してしまい仕事にも支障があることから、週に2回程度でいいから医師を呼んでもらえることはできないでしょうか。
A2	(町長) 過去には大学病院などにそのような要請を行ったこともありますが、小児科医自体の成手不足が深刻な状態であり、そのニーズに応えることができない状況です。
Q3	霧多布保育所は高台に移転しないのでしょうか。 現在の施設での保育時間中の津波対策は大丈夫でしょうか。
A3	(町長) 役場を高台に建設して数年が経過していますが、非常に風が強く、子どもが安心して外で遊べる環境にないことから、現在の施設を改修するなど延命対策を行い使用していきます。 津波対策については、日頃から高台への避難訓練を実施しており、津波警報が出た場合は、役場からも応援が行く体制を整えていますので安心してください。保護者の方については、まず自分の安全を確保してからお迎えにきてください。
Q4	学校の配置について、地域に一つという時代ではないと思います。地域の意向も大事だと思いますが、現在一学年が数人という状況では運動会も普通にできなくなってしまうし、様々な活動ができない状況となるため、子どもが可哀想だと思います。
A4	(町長) その時代時代の親御さんと一緒に、子どもを含めながら協議を進めなければならないと考えています。令和4年度以降に生まれた子どもの人数は町全体で一学年20人台なので、学校維持すら厳しい時代になると思います。20年、30年後を見越した配置計画を慎重に進めなければならないと考えています。
Q5	霧多布中学校が霧多布小学校に移転することについて伺いたいです。
A5	(教育長) 霧多布中学校の校舎老朽化に伴い、霧多布小学校に移転するというもので、場所が一緒になるということだけです。一步進めて小中一貫校、義務教育学校という形については、同じ校舎に居る期間で十分時間をかけて課題を洗い出し、解決策を見いだすことにより、その機運が高まれば新たな学校制度を進めていきたいと考えています。

Q6	子どもが減少する中で、霧多布高校の存続できるのでしょうか。
A6	<p>(教育長)</p> <p>町内から霧多布高校への進学率はさほど変化はありませんが、子どもの数が20人台ともなると一学年が10人ということも想定されます。</p> <p>現在、地域未来留学ということで首都圏や関西圏から子どもを霧多布高校に呼び込む活動を行っており、首都圏でのPR活動の場にも参加していますが、本町のように呼び込みたいという学校が増える一方で、全国的にも子どもの数が減っていることから、参加する子どもは減少傾向となり厳しい状況にあります。</p> <p>道立の高校については、一学年20人がボーダーラインとなっており、その状況が数年続くと閉校となりますが、霧多布高校は町立ですので、閉校については町が決めることとなります。</p>